

子どもが自分の身を守るために、大人が教えてあげること

子どもたちが、犯罪に巻き込まれないように保護者や学校、地域での見守りは大切です。また、それと合わせて、自分の身は自分で守れるようにする「子どもへの防犯教育」も重要です。

子どもへ教えること



- ・不審な人物へは、両手を伸ばして届く範囲には近づかない。
- ・自動車の運転席側へは近づかない。
- ・危険を察知した時には、大声を出す、防犯ブザーを鳴らす、走って逃げる。近くのコンビニ等のお店や「子どもを守るいえ」へ駆け込んで助けを求める。
(※とっさには出来ないので、日頃から練習しておきましょう！)
- ・手を掴まれて逃げられないときは、周囲に異様な雰囲気伝えるために、手足をばたつかせて抵抗する。
- ・男の子も女の子も水着になったときに、隠れている部分を触ろうとする人物は危険である。
- ・小さい子どもに近づいて、道を尋ねようとする人(ゲームやお菓子で誘う等)は危険である。
- ・不審な人物に遭遇したり見かけたりしたときは、必ずお家の人や先生に伝える。(このとき大人は、叱ったりせずに子どもの怖かった気持ちを落ち着かせてあげられるように、ゆっくりと話を聞いてあげてください。)

地域の方のパトロール



- ・不審者等を捕まえることが目的ではなく、人とすれ違うとき必ず顔を見て挨拶をすることで、地域の目が行き届いていることを見せることによって、不審者等に警戒を与えることが目的です。パトロール活動をして下さる皆様の目が不審者等に対する犯罪抑止力となるようお願いいたします。